

育休カフェ@広島



出典：Instagram「@ookmboo」

はじめに

広島市男女共同参画推進センター（ゆいぼーと）では、平成26年度より「ゆいぼーと育休カフェ@広島」を開催してきました。

この取り組みでは、「育児休業」の取得を促進するために、市民ボランティアと実施し、保育園園長、会社経営者、育児休業を取得した経験者等のアドバイスを伺いながら、取得経験者や育児休業中の方、これから取得する方の交流を主体に行ってきました。

この冊子は、この活動を通して得たものをまとめたものです。

私たちは、女性活躍推進が謳われている今日、男性の家事育児参加が拡がり、仕事と子育ての両立と働きやすい職場づくり、育児休業を男女共に取得し持続可能な社会づくりに進展することを望んでいます。この冊子が一助になれば幸いです。

平成31年3月
広島市男女共同参画推進センター



母親が笑顔で輝いていれば
必ず子育ては上手くいく
西岡 徳人



育児休業取得、そこからがスタート
橋本 洋輔



育児も保育園も選択肢はひとつじゃない
堀江 宗巨



これまで「パパとママの育休カフェ@広島」にゲストでお迎えしたお三方のご紹介



株式会社西岡工業 代表取締役 西岡 徳人氏

従業員を雇うという立場から男性社員への育休取得を推進。家庭の状況や会社の繁忙期を調整しながら育休取得をサポート。男性社員の育休取得→男性が育児家事の大変さを経験→家族への共感、感謝、思いやりが生まれ家庭円満→家庭がうまくいくと仕事にも好影響、この画期的なサイクルを実現。

実際に育休を取得した男性従業員からは「子どもとの絆が深まった」「妻に対する感謝の気持ちが深まった」「信頼できる会社だと妻が思うようになった」等の意見が集まっている。

会社では福利厚生面で家族手当等、家族世帯への手厚いサポートも実施している。

橋本 洋輔氏

一般企業で働くサラリーマン。2児の父。過去に2回育児休業を取得。そのイクメンぶりはテレビや新聞等のメディアに多数取り上げられている。育休中は育児や家事のルーティンに継続の大変さや楽しさを実感。育休を振り返って「家庭は大変だった。孤独を強く感じることもあり、自分の時間がないことがストレスだった」と語る。一方で、「妻と役割分担が柔軟にできるようになった。育休を取得することがゴールなのではなく、日頃の家庭参画への意識が大切だと改めて思った」と自身の育児休業を振り返っている。育休カフェで「奥さんとは戦友だ」と語ったこの言葉は多くの参加者の方々から共感を得た。



株式会社くうねあ 代表取締役

くすの木保育園 園長 堀江 宗巨氏

子どもの基本は「食う・寝る・遊ぶ」とし、保育園事業やベビーシッターサービス事業を展開。くすの木保育園は、“ひろしま自然保育認証制度”の第二次認証団体でもある。

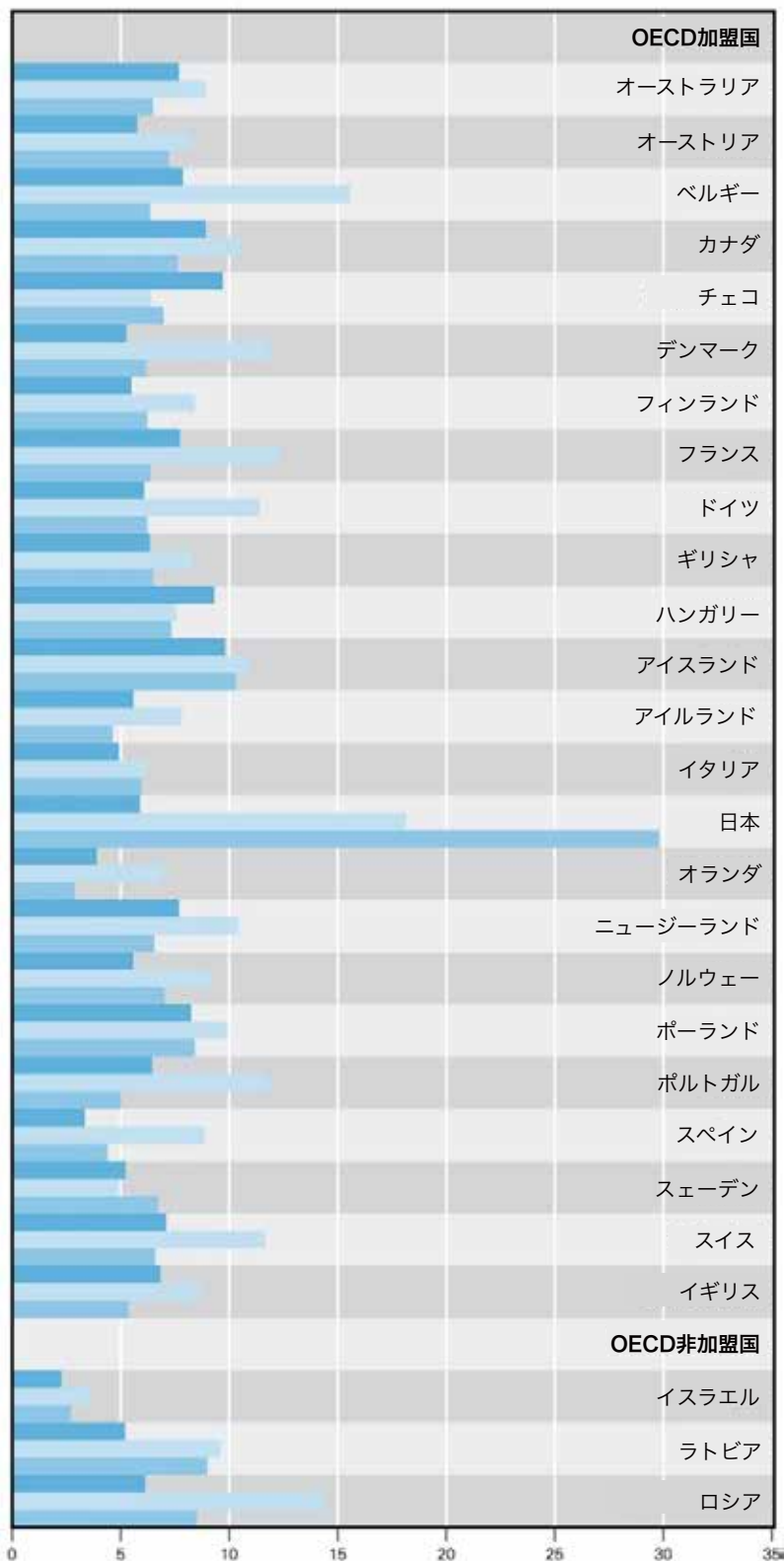
育休カフェでは育休明けのママを支援する保育園選びや職場への復帰のアドバイスを行う等、講師としても活躍。イクボス同盟ひろしまにも加入し、男性の育児参画に注力。育児や教育の選択肢は一つではない、たくさんある中から試行錯誤しつつ選択を繰り返していく、と堀江氏は語る。



世界で一番子どもが孤独を感じる国 日本

→子育て中の親も孤独だった

世界の15歳の意識調査「孤独感」



出典：OECD

■ 自分はよそ者またはのけ者にされていると感じる
 ■ 居心地が悪く疎外感を感じる
 ■ 孤独である

OECD(経済協力開発機構)2015年の調査によると、15歳の子どもが“自分は孤独だ”と回答した割合が最も多い国は、なんと日本だった。それもダントツで。

そんなどの国よりも子どもが孤独を感じる日本だが、「育休カフェ」を通じて子育て中のママも孤独を感じている人が多いということが、分かった。

ママの育児中の孤独感はこちら数年で認知度が上がってきたと思う。「産後うつ」「産後クライシス」「ワンオペ育児」などという言葉もよく聞くようになった。

産後はホルモンの関係で些細なことでも敏感に反応してしまう時期がある。その状態でパパと接すると喧嘩になり、次第にコミュニケーションが少なくなっていく、というのは産後夫婦のあるあるだ。

『コミュニケーションは時間の長さだけの問題じゃない。その瞬間の愛情の量の問題だと思う。たった数分でも、十分の愛情をかけて取れるコミュニケーションもある』妻の出産をきっかけに育児休業を取得した放送作家の鈴木おさむ氏は自身の著書の中でこう表現している。(出典：鈴木おさむ 著「ママにはなれないパパ」マガジンハウス刊)

これは、親子関係でも夫婦関係でも当てはまるのではないだろうか。

共働き家庭が多い今、子どもが1歳になると復職するママが多い。忙しくなり子どもと過ごす時間もパパと過ごす時間もどんどん減り、それぞれコミュニケーション不足になりがちだ。たった数分でも、十分な愛情をかけて取れるコミュニケーションを継続できれば、日本で15歳の子どもがこんなにも孤独を感じずにいられるかもしれない。

育児の現場

← 子育て中のママはこんな毎日の連続です！

産後は体の回復に時間がかかったり、数時間おきの授乳でまとまった睡眠が取れない期間が続く。今日は全く寝れなかったなんてことも日常的にある。

“ちょっとそこまで”の外出さえできず、家の中にこもりきりになり、家の中が社会の全てに感じる時期がある。

つらいとも言えず、一人ぼっちで育児と家事をひたすらこなす日々が続く。しかもそれが永遠に続くように感じる。

これも育児の現場のリアルなのだ。



出典：Instagram 「@ookmboo」

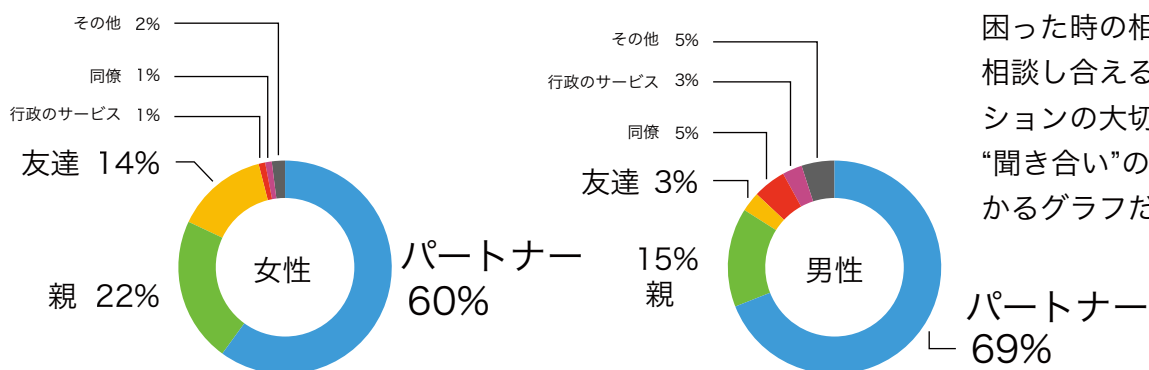


出典：Instagram 「@ookmboo」

このInstagramの投稿には800件以上の共感のコメントが寄せられた(2019年3月現在)

育児に困ったときの相談相手は誰ですか？

出典：育児と家事と働く環境調査報告書 ゆいぽーと



お互い一番身近なパートナーが育児に困った時の相談相手だと思っている。相談し合える環境づくり、コミュニケーションの大切さ、“言い合い”ではなく“聞き合い”の場を誰に求めているかが分かるグラフだ。

さいごに

経済的な理由や職場の理解が得られない、将来のキャリアへの不安などで男性が育児休業を取得できない現場の現実があります。

しかし、そもそもなぜ男性が育児休業を取得するのか、その必要性を発信している媒体に出会ったことはありません。

“イクメン”という男性が積極的に育児に関わる言葉が定着してきていますが、“イクママ”という言葉はありません。

ママはやって当たり前。だから24時間365日育児をしたところで誰からも褒められないし、誰からも有り難がられません。

ママのパートナーであるパパが少しでも育児の現場のリアルをママと共感できる、その手段の一つが育児休業の取得ではないでしょうか。

パパもママも育児休業を取得する選択肢が当たり前にある、そんな社会のムーブメントが起こる未来を思い描いて。

育休カフェ@広島 沿革

- 2014.7.26 第1回育休カフェ@広島を開催
- 2014.9.6 第2回育休カフェ@広島を開催
- 2014.12.13 第3回育休カフェ@広島を開催
- 2015.2.7 第4回育休カフェ@広島を開催
- 2015.5.30 第5回育休カフェ@広島を開催 ゲスト堀江宗巨氏
- 2015.10.3 第6回育休カフェ@広島を開催 ゲスト堀江宗巨氏
- 2016.5.29 第7回育休カフェ@広島を開催 ゲスト堀江宗巨氏
- 2017.1.28 第8回育休カフェ@広島を開催 ゲスト大島季子氏、木下麻子氏
- 2017.6.11 第9回育休カフェ@広島を開催 ゲスト橋本ご夫妻
- 2017.10.15 第10回育休カフェ@広島を開催 ゲスト西岡徳人氏
- 2018.2.25 第11回育休カフェ@広島を開催 ゲスト堀江宗巨氏
- 2018.7.1 第12回育休カフェ@広島を開催 ゲスト徳重彩実氏
- 2018.12.16 第13回育休カフェ@広島を開催 ゲスト堀江宗巨氏





出典：Instagram「@ookmboo」

広島市男女共同参画推進センター
ゆいぽ〜と

発行 平成31年(2019年)3月

発行元 広島市男女共同参画推進センター(ゆいぽ〜と)
〒730-0051 広島市中区大手町5丁目6番9号

TEL : 082-248-3320

FAX : 082-248-4476

Email : info-y@yui-port.city.hiroshima.jp

URL : <http://www.yui-port.city.hiroshima.jp>

この報告書に掲載されている画像その他の無断転載・複製を禁じます